

一 次の文章は、六十年以上にわたって看護師であり続ける筆者が、「看護という営みの源流をたどりながら、看護本来のありようについて改めて考えること」を目ざして書かれた『看護の力』という本の一部です。この文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（本文の表記の一部を変えています。）

卒業して最初に就職したのは小児病棟しょうじびょうどうでした。①ムガムチュウでひたむきに働いた新人看護師のころのことは、その当時入院していた病児の名前とともに今も思い出すことができます。②ミジユクな時代ではありましたが、子どもたちとの濃密のうみつなふれあいと印象深いエピソードから、今日に通じる看護観や研究のヒントを多く得たと思います。何よりも一人の看護師として職業継統けいぞくの動機づけになったのが、看護の道へのスタート間もないこの時期に「看護大好き」という気持ちと、「人間の可能性への信頼しんらい」ということをつかんだことだったと思います。米国の留学から帰国されてすぐに、この小児病棟で臨床指導者として着任された高橋シュン先生（当時、聖路加女子専門学校教授）との出会いも小児看護への魅力みりょくを深めました。

③ライフワークにしたいと思っていた小児看護でしたが、産休をとって出勤した時に、私の氏名は小児病棟から消えていました。「親になって初めて初めて本当の小児看護ができると思います」と心からお願ひしましたが、耳鼻咽喉科外来への配置転換てんかんを命じられたのでした。その時はかなり落ちこみましたが、持ち前の負けん気は、外来での看護の専門性を確立したい思いをかり立て、④サイタクの延長である「外来看護」を確立すること、当時は皆無かいむであった「耳鼻咽喉疾患しつかんの看護」に関する研究を行うことを目ざしながら、病院中でおそらく最も多忙たぼうで過密な看護業務をこなしていたと思います。

最近しんじは、注1頭頸科とうけいや注2口腔科くわく、めまい外来などに分化している傾向けいこうがあり、また、⑤ナイシ鏡の発達で私が勤務していたころの診療風景とはかなり異なっていますが、耳鼻咽喉科といえは、だれもが思いうかべるのは注3額帯鏡がくだいきょうを頭につけて診察する医師の姿や、のどの奥おくや鼻などの過敏かびんな部位を器械や綿棒でさわられる印象ではないでしょうか。

耳鼻科受診をする患者かんじやさんは、不具合な局所の診断を求めて来院しますが、⑥看護の立場からは、局所に苦痛や不具合を感じた患者さんの生活への影響えいきやうに目を向けながら、同時に、局所的な症状しょうじょうをもたらした生活面での要因に目を向ける必要がありました。

たとえば片耳難聴がある場合は、方向感覚がうまくつかめないので、事故を防ぐ意味からの助言が必要ですし、口内炎を反復する勤労学生には、うがいやトローチの説明以上に食生活へのアドバイスが重要です。一方、咽頭異常感をうったえる主婦は、ひよつとしたら、生活面で改善すべき問題がひそんでいるかも知れません。

結局、通算十三年もの長い間、耳鼻科の看護師として働いた結果得たことは、「生命を維持し人間らしい生活」を行ううえで、重要な器官のすべてを耳鼻咽喉科領域で担当しているということでした。⑦、生命を維持するうえで欠かせない、酸素の取りこみとその通路（鼻・咽頭、気管）、食事を摂取し飲み下す器官（舌、咽頭、食道）、人間としての直立二足歩行を支える内耳、社会生活上欠かせない⑧に必要な発声器官と耳等です。しかも、この部分のごく早い時期の異常への適切なアドバイスによって、その後のその方の人生にさえ影響をおよぼすこと（たとえば難聴者の多くが乳児期の中耳炎に端を発していること、その時に的確な指導があれば中耳炎の再発を予防し難聴に至らないなど）を痛感し、⑨外来での看護の重要性を知りました。

ここでの勤務の間に次男の出産もしましたので、文字通り注4 ワークライフバランスを地でゆくような日々でしたが、自分だけではなく多くの看護師たちが結婚や育児のために職を辞さない環境作りが必須でした。その最初が、病院の敷地内に託児所を創設することでした。焼け跡の廃屋を利用した粗末な部屋で保母不在のまま始めましたが、預ける母親看護師も交代で面倒を見る者も一種の悲壮感がありました。でも、次第に利用者が増えて、看護師が母になっても仕事を続けられる⑩ホシヨウの第一歩になり、杉の子保育所と名づけました。

また、納得のゆく仕事をしながら家庭との両立をはかるためには、夫や子どもたちに看護に対する理解と、妻・母が看護師であるために少々の不自由な生活が当たり前という思いを持つてもらう必要があります。この点に関しては、むしろ子どもたちの方が私以上に「看護師である母」を誇りにしてくれたことがどんなに励みになったことでしょうか。一緒に過ごす時間は短くてもできるだけ濃密な会話やふれ合う時間を大切にする一方で、子どもたちが成長した時に共通の話題を持てるような努力もしました。

『看護の力』川嶋みどり

注1 頭頸・・・頭と首の部分。

注2 口腔・・・口からのどに至る部分。

注3 額帯鏡・・・耳や鼻などの中に反射光を当て、内部を肉眼で観察するための医療器具。円形の鏡をバンドで額に固定して用いる。

注4 ワークライフバランス・・・生活と仕事とのバランスをとり、その両方を充実じゅうじつさせる生き方。

問一 ——部①・②・④・⑤・⑩のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 筆者自身が、看護師を始めたころにその職業を続けられた一番の理由だと考えていることを、文中から六十字程度でぬき出して、最初と最後の五字を書きなさい。(句読点、記号は字数に入れません。)

問三 ——部③「ライフワーク」の意味として最も適当なものを、次のア～オのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 一生の最後にする仕事 イ 一生をかけてする仕事 ウ 一生忘れられない仕事

エ 全力で取り組む仕事 オ 初めて取り組む仕事

問四 ——部⑥「看護の立場からは、局所に苦痛や不具合を感じた患者さんの生活への影響に目を向けながら、同時に、局所的な症状をもたらした生活面での要因に目を向ける必要があります」とありますが、本文に例として上がっている「口内炎を回復する勤労学生」の場合の「生活面での要因」とは何だと筆者は考えているのかを書きなさい。

問五 部⑦に当てはまる言葉を次のア～オのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア そして イ しかし ウ つまり エ また オ だから

問六 部⑧に当てはまるカタカナの言葉を十字以内で書きなさい。

問七 ——部⑨「外来での看護の重要性」とありますが、ここではどのようなことを言っていますか。文中の言葉を使って、解答らんらんに合うように、四十五字以上五十五字以内で書きなさい。(句読点は字数に入れません。)

問八 本文の内容から判断して、筆者が考えている本来の看護だと言えるものには○、言えないものには×を付けなさい。

ア 患者の背中を手でさするなど、患者とのふれあいを大切にすることを看護。

イ 病気を早期に見出し治療するために、できるだけ多くの検査をする看護。

ウ 患者一人一人が必ず持っている、自然に治る力を引き出す看護。

エ 患者が、できるだけ健康な時と同じように暮らせる手助けをする看護。

オ 患者が、一日でも長く生きられることを最も大切にすることを看護。

問九 あなたは将来どのような職業につきたいと思いますか。その職業名と、その職業につきたいと思う理由について、八十字以上百字以内で書きなさい。(句読点は字数に入れません。)

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(本文の表記の一部を変えています。)

「明日のパン、買ってきて」

と夕子に言われ、本から顔を上げ、一樹は「ええっ」と顔をしかめた。

「ここ、読んじやってから」

なお読み続けようとしたが、容赦なく本を取り上げられてしまった。主人公が、ようやく「影」と呼ばれる①デキを追い詰め、さて、どうなるかというような、いいところに限って、母親は②そんな用事を言いつけるのだ。行くと言つてないのに、一樹に赤い財布を握らせて、

「いつものやつね」

と追いやられる。

一樹はしかたなく立ち上がり、

「アイス、買っていい？」

と聞くと、③レイゾウコに肉やら野菜を詰めながら母は、

「私、ピーチ」

と叫んだ。

玄関を開けると④雨が降っていた。「あー、めんどくさい」と思いながら、自分の傘を探したが見当たらない。しかたがないから、母親の水玉⑤のを傘立てから抜いて家を出た。

⑥子供って損だなあとつくづく思う。自分が買い忘れたんだから、自分が行けばいいのに。だいたい、自分は朝にパンなんて食べたくないのだ。朝、起きると、だいぶん前に焼いたパンが、しなっとお皿にのっかっている。その情けない姿のパンに、バターを塗ろうが、ジャムを塗ろうが、少しもおいしくない。何のために、毎朝あんなものを食べなくてはならないのか、わけがわから

ない。弁当も、時々、ヘンなのが⑦不意打ちのように登場する。注到来物の巨大なマツタケ⑧の佃煮を、そのまんま、ドーンツとご飯のなかに埋めてあったりするので、みんなに爆笑される。母のつくる弁当は油断ならない。なので、弁当のいる時はぎりぎりまで黙っていて、その日の朝になってから言うようにしている。母は昼食代を渡しながら、「なんでもっと早く言わないのよ」と怒るが、お母さんのつくるものが恥ずかしいんだよ、と本当のことを言ってしまうと、⑨いろいろ修復不能になるので黙っているのである。

母がつくるものは、どこかぶかつこうで、流行おくれなのだ。服だって、みんなが着ているようなものは着せてもらえず、親戚からのお下りの、古いセーターやズボンを直したものでばかりだった。世の中は、今までになく⑩ケイキがよかったので、古いものばかり着ている一樹は浮いていた。そうになると、自然と人とかかわらず、休み時間などは本を読んで過ごすような子供になってしまった。とにかく、一人が一番気楽だった。一日、一度もしやべらずに学校から帰って来ることもあった。一樹は、そんな子供だった。

傘をさして歩いていると、気持ちが落ち着く。自分の傘に雨粒がはねる音が美しく、そう思うのは、もしかして自分だけかもしれないと思った。しかし、傘の中に一人でいると、⑪そのことを恥じる必要もない。自分の場所がはっきりとわかる雨の日が好きだった。

いつものパン屋で、五枚切りを一斤買い、それを雨に濡らさないよう注意深く歩いていると、突然、後ろからばしやばしやと水たまりをけちらす音が近づいてきて、おかつば頭の小学校低学年ぐらいの女の子が、

「入れて下さい」

と傘の中に飛び込んできた。

⑫一樹が驚いていると、女の子も驚いた様子だった。傘の柄が婦人物だったので、女の人だと思い込んでいたのだろう。でもすぐ、人懐っこい顔でニッと笑ってみせた。よく見ると、その子は子犬を抱いていた。女の子は、子犬が濡れないよう、不自然な形に体を傾け、一樹の歩調に合わせながら、一生懸命ついてくる。女の子の濡れた髪から汗の匂いなのか、⑬シヨウキのような何

かがむわっと傘の中に広がり一樹の顔にかかってくる。運動靴うんどうぐつに雨水が入ったのか、歩きたびにキュッキュツと音がして、それが女の子の弾む息はすと同じリズムで、傘を持つ一樹にぴたりとついてくる。

「この傘、いい音がするね」

女の子が、一樹を見上げて、大人びた様子でそう言った。下からにらむような黒目がちの目で、

「私じまんのも、いい音なんだよね」

と自慢じまんした。女の子は、かすかにカレーの匂いがした。

「今日のお昼、カレーだったの？」

一樹が聞くと、女の子はへへと笑って、

「ゆうべのカレー」

と歌うように言った。

「その犬、何て名前？」

一樹たずが尋ねると、

「まだ決めてない」

と、女の子は子犬を優しくなでた。

「ふーん、そーなんだ」

「お兄ちゃんが持つてるのは、何て名前？」

女の子は、一樹が大事そうに持っているパンを見て聞いた。一樹はちよつと考えて、

⑭

と答えた。女の子は、突然、

「私、こっちだから」

とスカートに子犬をくるむと、雨の中へ飛び出して行った。細い足がびよんぴよんと、泥どろをけり上げ走ってゆく。急に女の子は立ち止まると、こちらを向いて、

「パンって名前にしていい？」
と大声で聞いた。

「いい名前だと思うよ」

一樹が叫ぶと、女の子は、また⑮ハゲしい雨を⑯ものともせず走り抜けて行った。その後ろ姿を一樹は、呆然ぼうぜんと見送った。何だっただ、今は。一瞬いつしゆん、⑰自分も小さな子犬を抱き上げたような、不思議な気持ちだった。

この日の話は、誰だれにもしていない。していないが、その後もなぜかずと心に残った。雨の中、水たまりをはねのけるように、地面をけていた、あの小さな足は何だったんだろう。

注 到来物・・・よそからのもらい物。いただき物。

『昨夜のカレー、明日のパン』木皿泉

問一 — 部①・③・⑩・⑬・⑮のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 — 部②「そんな用事」とありますが、どのような用事ですか。三十字以内で書きなさい。(句読点は字数に入れません。)

問三 — 部④「雨が降っていた」とありますが、一樹は、「雨」に対してどのような思いを抱いだいていますか。一樹の思いを説明した次の文の□部に当てはまる言葉を、それぞれ指定した字数で文中からぬき出しなさい。(句読点は字数に入れません。)

用を言いつけられて雨の中を出かけるのは□部 A (六字) が、傘をさして歩くときは□部 B (八字) 。雨の日は、

□部 C (十四字) 気がして好きだ。

問四 — 部⑤・⑧の「の」と、同じ働きをしているものを次のア～オのうちからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア 桜の木が立っている。 イ たまの休みに出かける。 ウ いつ映画を見るのか。

エ 雨の降る音がする。 オ 走るのが一番速い。

問五 — 部⑥「子供って損だなあ」とありますが、一樹が感じている「損」とは、どのようなことですか。当てはまらないものを、次のア～カのうちから二つ選び、記号で答えなさい。

ア おもしろい本を読んでも、お使いに行かされること。

イ 使いたいときに、傘がいつもの場所に見当たらないこと。

ウ 好きではなくても、朝食はパンと決まっていること。

エ 雨の日に限って、外出させられること。

オ 時々ヘンな弁当を持たされること。

カ みんなと同じような服を着られないこと。

問六 — 部⑦「不意打ちのように」・⑩「ものともせず」の意味として最も適当なものを次のア～オのうちからそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

⑦ 「不意打ちのように」 ア 注意力を試すように イ 手をぬいたように ウ なんの予告もなく

エ わざと驚かせようと オ それほど深く考えもせず

⑩ 「ものともせず」 ア 気にもしないで イ かるやかに ウ 懸命に エ くぐりぬけて オ 一心に

問七 — 部⑨ 「いろいろ修復不能になる」とありますが、それはどのような状況じょうきょうになるといふことですか。その説明として最も適当なものを次のア～オのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 相手に対する日ごろの不満がこれ以上おさえられず、自分の気持ちを全部言わないではすまなくなってしまう状況。
- イ いつも感じている不満を一度言い始めると、勢いで、本当は思ってもいないようなことまで口から出てしまう状況。
- ウ 自分の思いをはつきり言葉にしてしまえば相手を悲しませ、とりかえしがつかないようなみぞが残ってしまう状況。
- エ 相手を責めるようなことを言えば相手を怒らせ、自分が言った以上に反撃はんげきを受けることになってしまふという状況。
- オ 面と向かって相手への悪口を言うと、相手からこれまでよりももつといやがらせをされるようになってしまふ状況。

問八 — 部⑩ 「そのこと」について、次の問いに答えなさい。

- (1) 「そのこと」とは、どのようなことですか。文中の言葉を使って三十字以内で書きなさい。(句読点は字数に入れます。)
- (2) 一樹の考えた「そのこと」が、思いちがいだつたとわかる部分を、文中から十三字でぬき出しなさい。(句読点、記号は字数に入れます。)

問九 — 部⑫ 「一樹が驚いていると、女の子も驚いた様子だった」とありますが、一樹と女の子は、それぞれどのようなことに驚いたのですか。一樹が驚いたことを二十字以内、女の子が驚いたことを三十字以内で説明しなさい。

(句読点は字数に入れます。)

問十 部⑭に当てはまる最も適当な言葉を、文中から五字でぬき出しなさい。

問十一 — 部⑩ 「自分も小さな子犬を抱き上げたような、不思議な気持ち」とありますが、この時の一樹の思いを説明したものとして最も適当なものを次のア～オのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 雨の中、水たまりをけちらしながら走ってきた女の子が、ひとりで歩いていた一樹の心に強い印象を残し、あたたかな気持ちにしてくれたこと。

イ 雨の中、拾ったばかりの子犬を大切に抱いて歩いている女の子が、一樹にも子犬を飼ってみたいような気持ちにさせてくれたということ。

ウ 雨の中、泥をけり上げてびよんびよんと走ってゆく女の子の姿が、内気な一樹の心に残って、もう一度会いたいと強く願うようになったこと。

エ 雨の中、子犬が濡れないように気を付けながら一生懸命ついできた女の子の優しさにふれて、ひとりぼっちの自分も誰かに優しくしたいと思うようになったこと。

オ 雨の中、水たまりをはねのけるように走っていった女の子と、もつと話をしたかったのに、言い出せなかった自分をはがゆく思っていること。